

実際に、要求提出日には、いち早く南労会支部が駆けつけてくれ、その後も、港合同の各支部の仲間、動労千葉や大阪市斎場の仲間など、連日の集会に絶え間ない結集を貫いてくれました。

こうした港合同という地域的背景に支えられ、圧倒的な地域の注目の中で我が支部が闘争体制を堅持して闘っていける環境こそ、我が支部の貴重な財産であることを再確認して、だからこそ港合同の組織強化・拡大に、さらに奮闘していきたいと思えます。

斎場解雇撤回・控訴審傍聴報告

S支部 M M

S支部からは組織部のメンバーを中心に計六名で参加しました。

私は今回から初めての傍聴参加で、裁判所に入ることも体が初めてなので新鮮でした。

特に傍聴する部屋は、TVの報道でもったイメージと違い、とても小さい部屋で驚きました。

今回第二回目の控訴審で傍聴自体の内容は提出された書面の確認と、次回判決日の日程確認だけで、時間にして数分ぐらいで終了しました。

傍聴初参加ということもあり、今までの経緯があまりわかっていないうえに、私は傍聴は三〇分から一時間ぐらいを予想していたので、短時間で終わったことに驚きました。

後で、先輩から簡単に経緯を教えてくださいました。まだ情報不足だとは思いますが、少しずつ勉強していきたいと思えます。

傍聴後は、原告団と応援にきていた各支部との集会がありました。

弁護士の方は、判決について、勝利を信じているが、油断はできないと緊張感をもっていました。また応援にきていた各支部の報告も色々されました。

今回裁判の傍聴は、なかなか経験ができないことで、貴重な体験ができたと思えました。

まだまだ勉強不足ですが、判決日に勝利を信じ、できることは支援していきたいと思えます。

